

## 令和2年度学校自己評価アンケートからの改善案について

・分掌（ 教務部 ）・特別委員会（ ）・その他（ ）

### ① 課題や問題点

学校自己評価アンケートの教育課程(2-1)、学習指導(2-3)、学校行事(2-8)、学校評価(3-2)、文書・情報管理(3-8)の事項については、アンケート結果からは課題や問題点はありませんでしたが、教務部として、下記の問題点を挙げます。

1. 通知表担任所見は、担任が労力をかけて書いている割には保護者、生徒は読んでいない。また、面談時に話しと重複している。指導要録と所見と整合性がないケースもあるのではないかな。また、来年度から「道徳」の個人所見が追加されるので、現状のままでは仕事量もふえる。
2. 評価・評定の単純なミスが減らせないか。

### ② 改善案

1. 来年度の通知表担任所見は、3学期の1回とする。1、2学期の生徒の学習や生活についての所見は7・12月の三者面談時に伝える。3学期の学習や生活について・道徳所見は指導要録の記載内容と同様とする。
2. 評価・評定を出した後に、クロス集計をかけてミスがないか確認する。

**確認** 定期考査は、年4回実施(6・9・11・2月)する。1学期中間考査に代わるテストは、実施したい教科で内容・時間等を精査して5月に学年ごとで時間を設定(総合・学活・教科)して、実施する。

## 令和2年度学校自己評価アンケートからの改善案について

・分掌（生活指導部）・特別委員会（ ）・その他（ ）

### Ⅰ 課題や問題点

2-4 【生活指導】 おおむね良好

2-4-2 ルールの共通理解について 76.1%

①服装の再検討と整理をすべき 体操着の変更について

②ルールの確認は部会の報告書だけでなく口頭でも必要

2-9 【健康・体力・食育】 おおむね良好

2-10 【特色ある教育】

2-10-3 オリパラ教育の実施について 68.0%

2-13 【部活動】 おおむね良好

2-13-2 部活動の実施計画・体制について 77.3%

3-5 【保健管理】 おおむね良好

3-6 【安全指導】 おおむね良好

### Ⅱ 改善案

2-4-2

①服装については、その都度状況にあわせて検討していき、共通理解できるように整理していきます。また、体操着については乾きづらい生地でもあるので、次年度検討していきます。

②すみません。報告書とあわせて、朝打ち等で口頭でも伝えていきます。また、生徒への周知はできる限り朝礼等の機会を利用して伝えていきます。

2-10-3

体育科で作成したオリパラ教育計画書を確認できるように、オリパラ教育のフォルダを作成いたします。

2-13-2

月ごとの実施時間について、再度確認をして計画的に行っていきましょう。

## 令和2年度学校自己評価アンケートからの改善案について

・分掌（ 学習進路部 ）・特別委員会（ ）・その他（ ）

### 特別の教科 道徳

・各教科等をはじめ、学校教育全体を通して指導している。

D・・・1名

改善案

指導書にある各教科との関連表を見て、各教科と関連づけて授業を行う。  
各学年の道徳担当から提案。

### 総合的な学習の時間

・様々な社会体験や自然体験を通して、生徒の問題解決能力を育成している。

C・・・2名

改善案

職場体験や修学旅行などが実施できなかったことは、新型コロナウイルス対応のため今年度は仕方ないと思う。

### キャリア教育・進路指導

・キャリア教育に・進路指導について組織的な取り組みをしている。

改善案

各学年の総合的な学習の時間に使用した教材、プリントなどを学習進路部のフォルダに保存して共有するようにする。

### その他

・3年の2学期の仮内申通知の方法について検討。

これまで、学年ごとに通知の方法（口頭か書面など）が違ったが、深沢中として来年度からは以下の統一した形で行っていく。

学習進路部原案

- ・3科5科9科の合計の数字のみを書面で通知する。
- ・通知の内容が最終決定ではなく、変更の可能性があるという文言をいれる。
- ・通知の書式は今年度の3学年の使用したもので統一する。

## 令和2年度学校自己評価アンケートからの改善案について

・分掌（ ）・特別委員会（特別支援教育）・その他（ ）

### ① 課題や問題点

2-12 特別支援教育 → おおむね良好

### ② 改善案

【改善案】 生徒の障害や特性、困り感を理解しない職員の言動があるのが残念です。

- ① 対応方法で苦慮する場合は、すまいるルーム担任やSC、巡回心理士に相談したり、特別支援教育委員会で検討する。
- ② 職員会議において、すまいるルーム担任を講師とし「ミニ研修会」を数回行う。
- ③ 専門の外部講師を招き、研修会を開催する。

委員会として来年度は、上記3点について重点的に活動し、特別な支援を要する生徒の理解を深めていく。